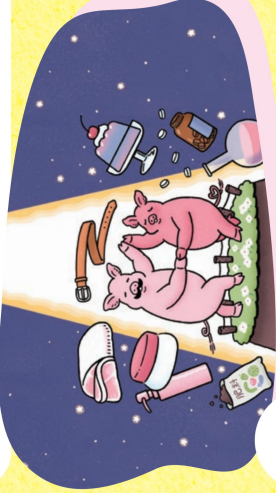


ビッグスキンQ&A

1. 「革のために動物を殺している」という誤解

革のただけに動物の命を奪うことはありません。動物は食肉用として育てられ、その際に出る皮を無駄にせず活用しているのが革製品です。昔から「命を余すことなく使う」文化がありそれは今も続くサステナブルな活動です。

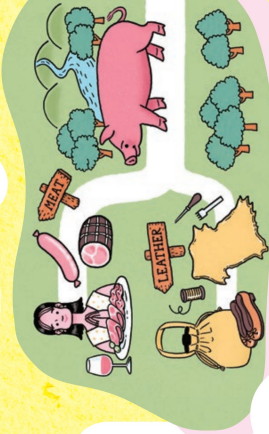


3. 「革をやめれば温室効果ガスが減る」という誤解

お肉を食べる限り皮は必ず出ます。日本だけでも年間約100万頭分の牛皮があり、捨てれば大量の二酸化炭素を排出します。革を別の素材で代替すると逆に環境負荷が増えることもあり、革を製品にすることは脱炭素に貢献する循環です。

4. 「代替素材の方がエコ」という誤解

安価な人工素材は見た目は良くても長持ちしない場合が多く、買い替えや廃棄で環境に負担をかけます。一方で革は丈夫で長く使えるため、結果的に地球にやさしい素材といえます。



2. 命を余すことなく活用している

牛や豚はお肉として食卓に届くだけでなく、皮や脂、骨なども化粧品や医薬品、油脂、コラーゲン、ゼラチン、肥料などに活用されています。革はその一部であり、命を生かす循環の中にあります。



5. 「革」「レザー」と呼べるのは動物由来だけ

2024年3月、日本産業規格 (JIS) が改定され、「皮本来の繊維構造をほぼ保ち、腐敗しないようにならめた動物の皮」と定義されました。これにより、リンゴやサボテンなどを使った素材を「〇革」、「〇〇レザー」と表示することはできなくなり、消費者の誤解・混乱を防ぎ、国際的な用語の統一による相互理解・消費者保護のための動きです。ただし罰則はなく、実際の対応は業界や小売業者に委ねられています。動物由来以外の素材を「〇〇革」「〇〇レザー」と表示することは、景品表示法の優良誤認とみなされる可能性もあります。

皮革素材の試験や技術の相談は

東京都立皮革技術センター



東京都の伝統的地場産業である皮革関連産業の技術向上を目的に設置され、皮革に関する研究、試験、技術支援や相談などを行っています。皮革全般に対応する皮革技術センター(墨田区)と、靴やばきものが専門の台東支所があります。

〒131-0042
東京都墨田区東墨田3-3-14
☎ 03-3616-1671
FAX.03-3616-1676
<http://www.hikaku.metro.tokyo.lg.jp/>



技術相談

皮革製造や受託品に關する諸問題について相談 助言を行っています。

研究

豚皮の有効利用 レッグスキンの新規用途開発、革の特性、副産物・廃棄物の有効利用などの研究を行っています。



試験

皮革原料や製品等の各種試験を行います。引張強度、伸び、吸水度、耐水度などの物理試験や、染色堅牢度、皮革の物性などの試験をします。受託試験はご相談ください。



研修・講習会

皮革製品等の品質向上・生産工程の改善を図るための研修や講習会を開催しています。



開放機器の貸出

実験室内に設置・染色・仕上げ用機械等を設置し、皮革関連業者に開放しています。新製品の開発や新技術の習得など、試験室としてご利用いただけます。

■開放機器：ステッチ機・トム(天小)・空打ち本鼓・真空乾燥機・バフマシン・ホリマシン・シグママシン・吹き付け塗薬スプレーマシン・油圧式製革プレス・ネット張り乾燥機その他

施設見学

教育機関や企業、団体等の見学を受入れています。見学時間1時間。

展示室

代表的な皮革のサンプル、多様なビッグスキン素材、レッグスキンを用いた製品を展示しています。

